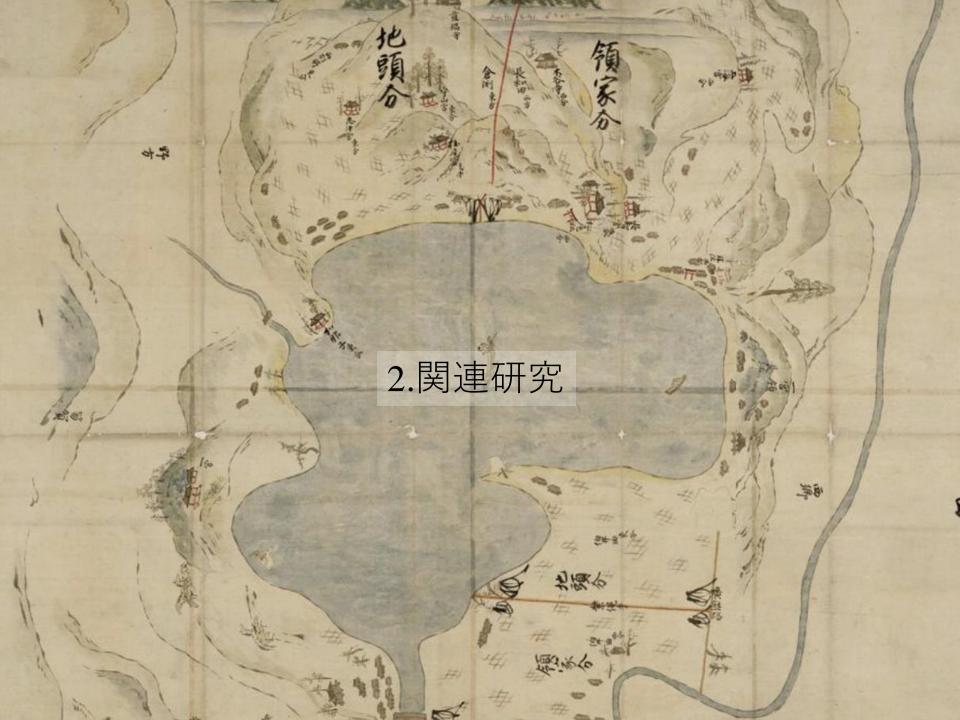
Linked Open Data チャレンジ Japan 2024 授賞式シンポジウム 2024年12月22日.

学術LOD賞

a011: nihuBridge LOD; 荘園関係DB LOD

大井 将生(人間文化研究機構) 中村 覚(東京大学) 本研究の目的は, 荘園関係データの活用を促進する 情報/学習モデルを開発することである-



### 【荘園に関する歴史教育】

✓ 荘園は、歴史教育において中世の土地制度や人々の営みを 理解する上で重要な概念

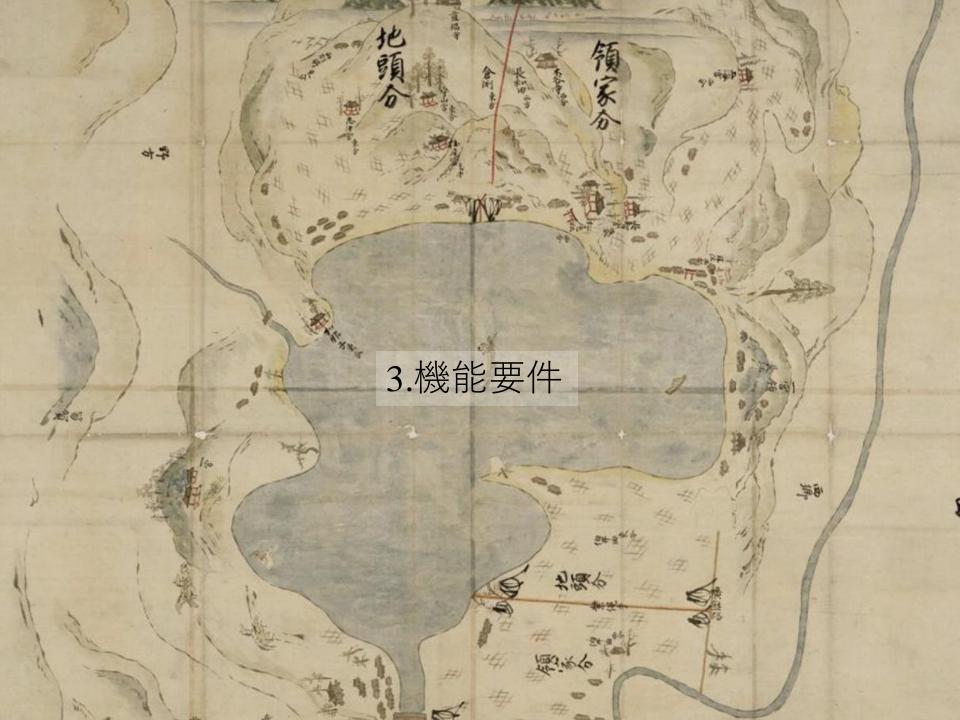
However,

### 【課題】

- ▶ 教師にとっては取り扱いが困難で教えづらく、生徒からも分かりづらい領域
- ▶ 梅野ら(1990)荘園に関する学習の困難性として以下を挙げている
  - ・荘園に関する研究成果を活用する際,教育者にとって全体理解が容易でない
  - ・荘園に関する教科書や副教材に最新の研究成果が十分に反映されていない
  - ↑が反映されていたとしても, <u>学習者が意欲的になりづらい</u>

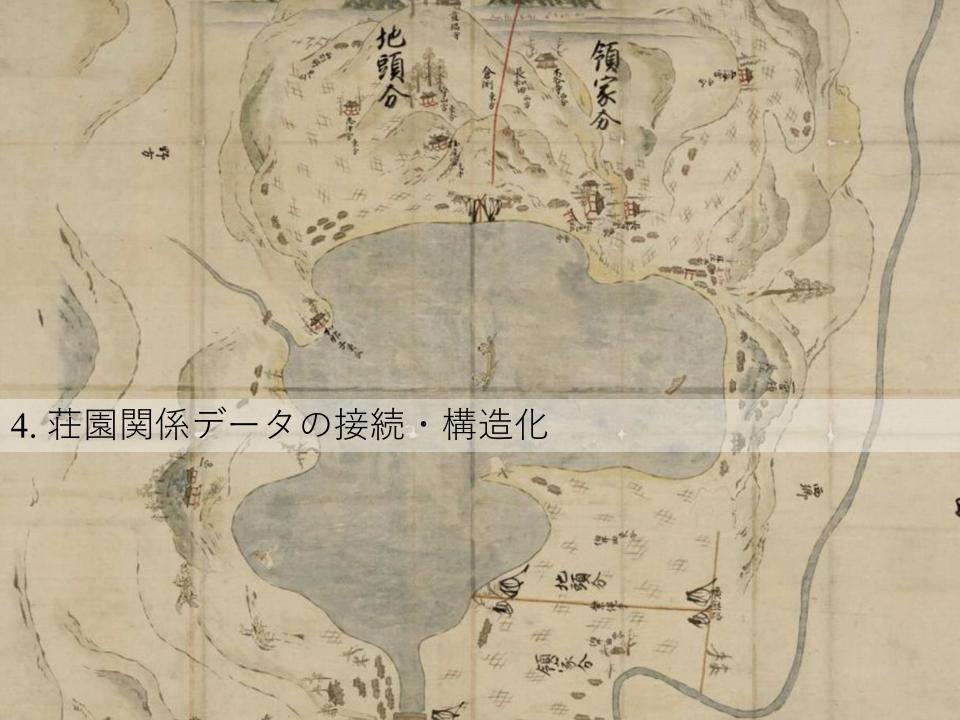
#### 【新学習指導要領の改訂のPoint】

- ▶ 新設科目「日本史探究」 ;1990年以降に進んだ研究成果が取り入れられた
  - →それまでの荘園に関する説明がchange
    - →領域型荘園におけるエリアのイメージを把握する重要性が企
- ▶ 多面的・多角的な考察を可能にするために
  - →デジタル化された諸資料などを積極的に活用し
    - → 資料から「問い」を形成することの重要性も提示
- ▶ こうした指導要領改訂のポイントをふまえ,各時代の特徴を資料から読み取って仮説を表現するためには、
  - →時代を特徴づけ,多面的に捉えることが可能な資料提供が求められ,
    - →そのためにはDAへの目配りも必要



# 3. 学校教育での活用に向けた機能要件

- ✔ 荘園データをマッピング
  - →地図上で荘園の位置の直感的把握を可能に
- ✔ 荘園データと論文を接続
  - →研究成果を参照可能に
- ✓ 荘園データとDA資料を接続
  - →関連情報を参照可能に



#### 4.1 日本荘園データのRDF化

荘園に関する基礎データとして, 歴博の「日本荘園」DBを使用し, 以下に示すようにResource Description Framework (以下RDF) で記述, 構造化

<https://w3id.org/shoen/entity/shoen/5703031>

rdfs:label "井上庄"; schema:description "市町村コード: 30322";

 $schema: spatial < \underline{https://w3id.org/shoen/entity/place/30322A1968} > ; rdfs: \underline{seeAlso} < \underline{https://w3id.org/shoen/entity/shoen/5703032} > ; rdfs: \underline{seeAlso} < \underline{https://w3id.org/shoen/entity/shoen/shoen/entity/shoen/shoen/entity/shoen$ 

#### 4.2 行政区画データのRDF化

荘園に関する位置情報を可視化するために→ 市町村コードを活用 e.g. 「https://w3id. org/shoen/entity/place/30322A1968」というURIを割り当てた上で, 以下のようにRDFを記述する.

<a href="https://w3id.org/shoen/entity/place/30322A1968">https://w3id.org/shoen/entity/place/30322A1968</a>>

rdf:type <<u>https://jpsearch.go.jp/term/type/Place</u>>;

rdfs:label "和歌山県那賀郡粉河町"; schema:geo < http://geohash.org/uxzzzrvryxvr>;

schema:url < <a href="https://geoshape.ex.nii.ac.jp/city/resource/30322A1968.html">https://geoshape.ex.nii.ac.jp/city/resource/30322A1968.html</a>;

schema:relatedLink < <a href="https://geoshape.ex.nii.ac.jp/city/geojson/19200101/30/30322A1968.geojson">https://geoshape.ex.nii.ac.jp/city/geojson/19200101/30/30322A1968.geojson</a>>.

< http://geohash.org/uxzzzrvryxvr > schema:latitude 34.269984; schema:longitude 135.407981.

\*各市町村コードに対応する緯度・経度の取得に際しては、ROIS-DSの「歴史的行政区域データセット $\beta$ 版」を使用. 上記例では、市町村コード30322から市区町村ID「30322A1968」を取得し、代表点及びGeoJSONへのリンクを記述. →この手法により、6588件の荘園について「歴史的行政区域データセット $\beta$ 版」との対応を実現.

## 4.3 遺文番号のRDF化

基礎データとして活用した「日本荘園DB」の各荘園に付与されていた「遺文番号」についてもRDF化

e.g.; 平安遺文「平2779」は次のように記載 jps:ibunプロパティ(https://jpsearch.go.jp/term/property#ibun)を用いて 荘園のリソースに遺文番号に関するリソースを関連づけ

https://w3id.org/shoen/entity/shoen/5703031

rdf:type type:Shoen

jps:ibun https://w3id.org/shoen/entity/ibun/

平/2779

https://w3id.org/shoen/entity/ibun/\frac{\pi}{2779}

rdf:type type:平安遺文

rdfs:label "平2779"

type:平安遺文

rdf:type type:Ibun



RDF化したデータを活用しやすくするため、 可視化アプリケーション「荘園関係DB LOD」を開発 (<a href="https://shoen.vercel.app/en">https://shoen.vercel.app/en</a>)



ピックアップ











1 11

機能

大井庄











SPARQL Endpoint

## 5.1 検索機能

- ✔ 地理空間情報や研究関連情報による 絞り込みを可能に
- e.g.「荘園関係DB LOD」> 「日本荘園 | LOD> 右図に示す検索UIを提供
  - → |国名|「郡名|「領家本家| 「都道府県名」「市町村コード」 などのファセットによる絞り込み 検索が可能に.

当庭庄

富田庄

若窪庄

米用庄

稲用庄

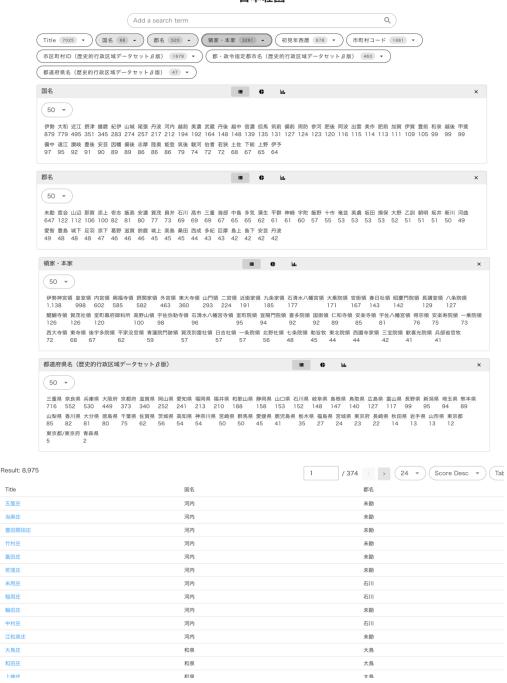
輸田庄

中村庄

大鳥庄

e.g. | 荘園関係DB LOD」> 「荘園関係文献目録」LOD> 文献著者名からの検索も可能に.

#### 日本荘園



### 5.2 関連情報との接続

- ✓ (右図)「荘園関係DB LOD」> 「日本荘園」LOD>各荘園の画面例
- e.g. 遺文番号を活用> 東京大学史料編纂所の 「平安遺文フルテキストDB」 「鎌倉遺文フルテキストDB」 「日本古文書ユニオンカタログ」 へのリンクを提供 →関連資料の検索を支援

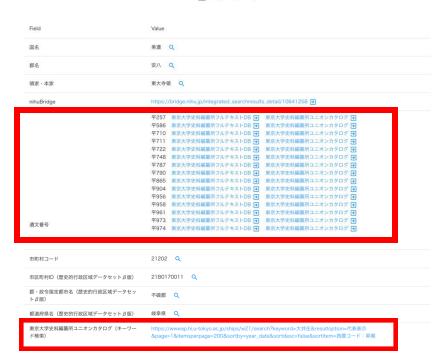
#### 日根野庄

🚅 {.} 💬 **<** 

Field	Value
国名	和泉 Q
郡名	El根 Q
nihuBridge https://bridge.nihu.jp/integrated_searchresults_detail/10639455 🕤	
遺文番号	鎌26157 東京大学史料編纂所フルテキストDB 🗗 東京大学史料編纂所ユニオンカタログ 🔁
初見年西曆	1317 Q
東京大学史料編纂所ユニオンカタログ(キーワー ド検索)	https://wwwap.hiu-tokyo.ac.jp/ships/w21/search?keyword=日間野圧多resultoption=代表表示 Spage=1&itemsperpage=200&sortby=year_date&sortdec=false&sorttem=面積コード:資料

#### 大井庄

₫ () ፡ ♥ <



### 5.2 関連情報との接続

#### <各荘園の詳細画面>

- ✓ 「日本荘園DB」のメタデータ に基づいて同じ地名に属する荘 園情報や同じ荘園が言及されて いる「荘園関係文献目録」の情 報が提供可能
- ✔ 各荘園に関連する研究成果や DA資料を探索的に参照可能と するため→  $\lceil S \times UKILAM \mid LOD \mid$ Easyアプリ」の手法を援用
  - →CiNii, J-STAGE, JPSAPIを利用
  - →当該荘園名で検索> 結果として各荘園に関連する 一次資料や文献・論文情報を 自動的に提示

#### 関連するコンテンツ







#### Japan Search



:吹金一郎 校, 作陽古書刊行会 作陽誌 西作誌中巻 西作誌. ..中卷』(国立国会図書館所蔵) 国立国会図書館デジタルコレ ション」収録

雄山閣編輯局 編, 雄山閣『大日 本地誌大系 第36巻 新編相模国 風土記稿. 第1至5』(国立国会図

書館所蔵)「国立国会図書館デジ

タルコレクション」収録

佐久志 (郷庄部) 写



『佐久志 (郷庄部) 写』(長 野県立歴史館所蔵)「信州デジタ ルコモンズ 長野県立歴史館所蔵 資料」収録



地部十六 1 美濃國 莊保 1282ページ

『地部十六 1 美濃國 莊保 1282ページ』(国文学研究資料 館所蔵)「古事類苑」収録



四郷讀藪下 券4

所蔵資料」収録

吉沢 好謙/著, ヨシザワ ン, 不明『四鄰譚藪 下 (県立長野図書館所蔵) ジタルコモンズ 県立長

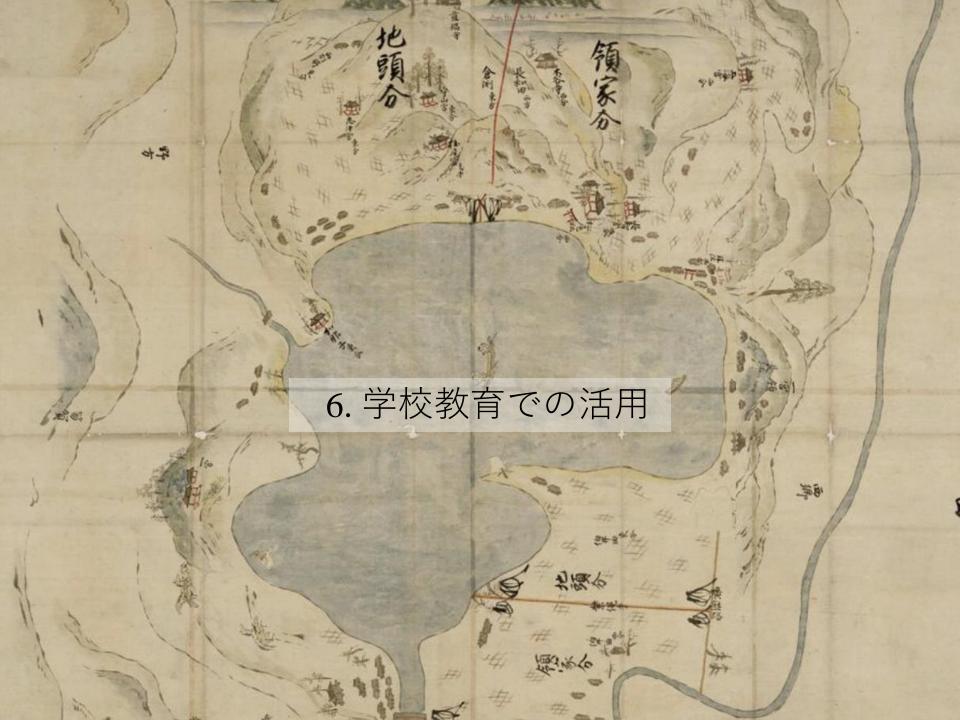
### 学習指導要領コードを媒介としたカリキュラム&教材群との接続



## 5.3 地図機能

- ✓「歴史的行政区域データセットβ版」 との接続を活かし、右上図に示すよう に検索結果を地図上で表示
- ✓ファセット検索と組み合わせること でインタラクティブな表示を実現
- ✓ 荘園の位置情報や地理上の特性, 荘園 所在地における行政区域境界の歴史 的変遷などに着目した探索が可能に
- ✓ 「日本荘園」の「初見年西暦」との接続を活かし、右下図に示すようにヒストグラムや累積数の可視化及び絞り込み検索機能を提供
- ✓ 荘園に関する考察を時間情報と空間情報を組み合わせて視覚的に行うことが可能に





## 【実践結果】

cs グループ活動後に実施した「荘園LODを通じて何がわかったか?」に対する回答より

- ➤ 生徒は主に①立地,②<u>荘園領主</u>,③資料初見年表,という三点, あるいはそれらを組み合わせたアプローチで荘園LODを活用
- ▶ ③については,資料初見を荘園成立と読み替えて理解した生徒が多いという課題も
- ➤ 資料初見やその増減が意味することをどのように伝えるかという学習デザインと,LODやDB側の分かりやすい情報提示という双方において,今後の検討が必要か

## **Family**

日本荘園データベースのうち、領家・本家/緯度経度の有無でフィルタリングし、上位20件を表示しています。「領家・本家」の一覧は、こちらをご覧ください。

$\checkmark$		件数	色
$\checkmark$	皇室領	809	
$\checkmark$	伊勢神宮領	771	
$\checkmark$	興福寺領	480	
$\checkmark$	摂関家領	474	
$\checkmark$	内宮領	434	
$\checkmark$	外宮領	329	
$\checkmark$	東大寺領	272	
$\checkmark$	山門領	225	
$\checkmark$	二宮領	172	
$\checkmark$	近衛家領	171	
$\checkmark$	官衙領	152	
$\checkmark$	九条家領	149	
$\checkmark$	大乗院領	142	
$\checkmark$	石清水八幡宮領	136	
$\checkmark$	春日社領	121	
$\checkmark$	昭慶門院領	111	



原DBのメタデータを整備することの重要性/可能性を再認識

https://shoen.vercel.app/en/family

## 【実践結果】

cs グループ活動後に実施した「荘園LODを通じて何がわかったか?」に対する回答より

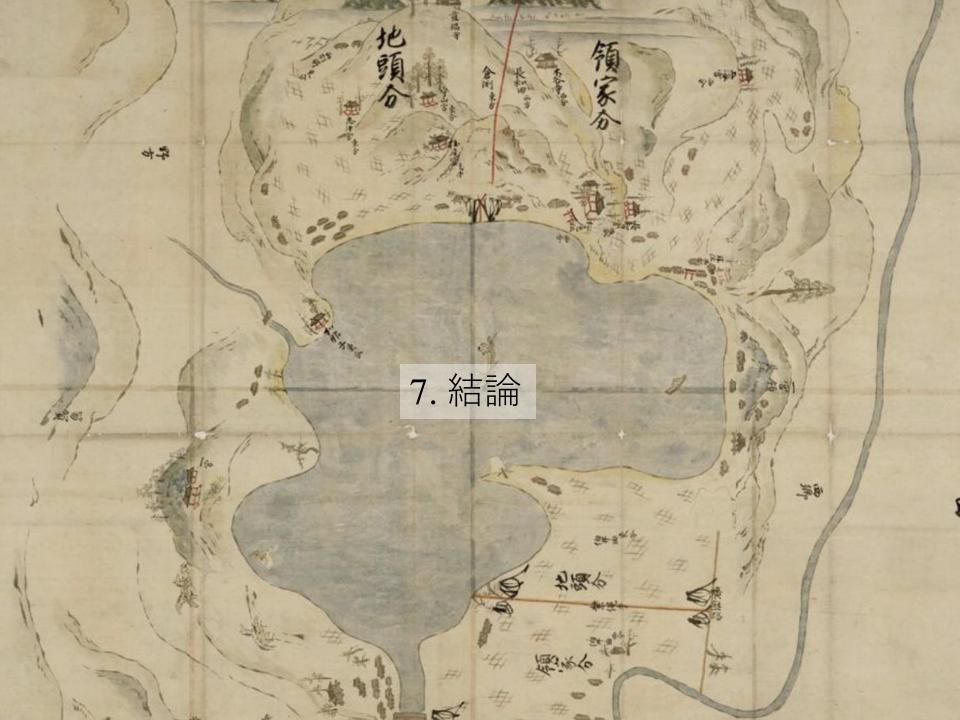
- ▶ 生徒は主に①立地,②荘園領主,③資料初見年表,という三点, あるいはそれらを組み合わせたアプローチで荘園LODを活用
- ▶ ③については、資料初見を荘園成立と読み替えて理解した生徒が 多かったという課題も
- ➤ 資料初見やその増減が意味することをどのように伝えるかという 学習デザインと,LODやDB側の分かりやすい情報提示という双方 において,今後の検討が必要か

## 【論点】

歴史データや研究成果をLOD化する際、

<その時代そのもの>と<その時代の研究成果> の間にある'ラグ'

をどのように捉え、どのように教えるべきか?



## 7.1 教育活用の観点からみた成果と課題

#### 【荘園LODの利点】

- ▶ 地理的な観点や荘園領主別に考察するアプローチを支援できることが示唆
  - → (本研究の事例では,) 生徒が荘園に対する既存の漠然としたイメージから 脱却し,認識変容を促される様子が認められた.

#### 【今後の課題/検討事項】

- ➤ 荘園のマッピングや可視化などの情報デザイン;
  - △現状は「点」で位置情報を示しているため,「面」的な広がりの把握が×
    - →荘園の数と広さは、異なる観点としてそれぞれ重要な要素であるため、 データの表現方法は改善の余地がある
- ▶ 時間情報に基づいた可視化に関する情報基盤の整備;
  - △教育現場の立場としては要望の強い立荘時期に関するデータが少ない
    - →元DBのメタデータ整備に依存する論点であるため,
      - 活用者と構築者を架橋した連携や協働が進展することが望まれる<br/>
    - →DB公開機関において(構築者の離退任等に依らず)、データの更新や 見直しが可能な体制を作ることもLODの構築&活用の観点からも肝要